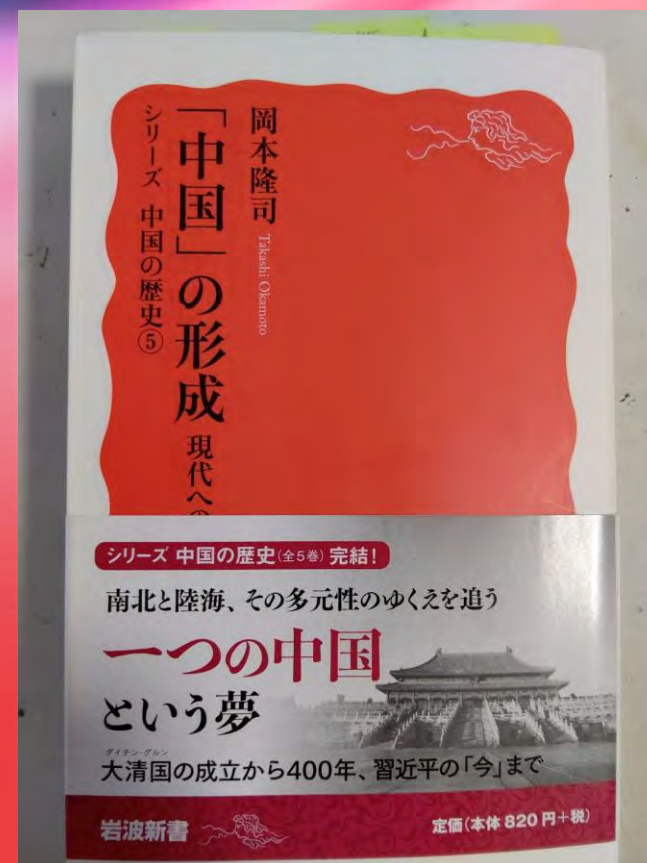


# 「中国」の形成

## 現代への展望

岡本隆司

シリーズ 中国の歴史⑤



# 孤立する中国

この体質はどこから来たのか

新型コロナウイルスの隠蔽から始まって、香港問題、チベット問題、ウイグル問題など、次々に明るみに出る非人道的な振舞から、いまや世界から孤立している中国（あるいは中国共産党）だが、この体質はいったいどこから来たのか

それを考えるうえで示唆に富む一冊

三浦雅士 評（評論家）

# いわゆる「中国」が形成されたのは 清朝治下である

- 領土と人口の規模を考えれば、中国が中国になったのは17世紀以降のこと
- 海陸の領土問題は資源問題と絡まって、深刻の度合いを増すが、現代に流通する中国という一つのまとまりの原型を作ったのは清朝なのだ
- 現代日本の原型を作ったのは江戸時代と見るのに似ている

# 清朝の頃 の人口

康熙帝（在位1661-1722年）統治の末年に一億人の大台に乗る

乾隆帝（在位1735-1795年）末年に約3億人

道光帝の1833年戸籍登録人口は、約4億人となった

わずか100年あまりで4倍に

この人口爆発を説明できる決定的な学説は無く、今でも中国史上の謎の一つとされている

近代の中国は、毛沢東（1893-1976）が死去するまで「産めよ増やせよ」の時代が続いた

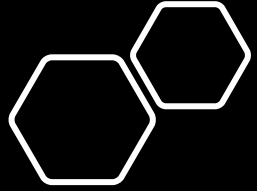
清朝は征服王朝である

中国共産党も  
征服王朝のよ  
うなもの

- 清朝は万里の長城の外の軍属（女真族ヌルハチの勢力）から始まった
- マルクス主義という外来思想を標榜する中国共産党をひとつの民族と考えれば、これもまた征服王朝のようなもの
- 外来の支配者と土着の被支配者の関係が歴然としてい

# 『社会主義 市場経済』 は権力と民 間が役割を 分担した

- 「社会主義市場経済」は毛沢東が克服できなかった二元構造の社会構成にみあう体制だった
- それに根差す特質・弊害も免れなかった
- いまはそれを『格差』や『腐敗』と呼んでいる
- 中国共産党上層部がほとんど例外なくアメリカやスイスに膨大な資産を隠し持っていることが暴かれた
- この世界史上未曾有の「腐敗」はマルクス主義の悪弊ではなく、伝統中国の悪弊である
- 中国史においては王朝末期にはほとんど例外なく官僚が「腐敗」している



現代中国の  
『一つの中国  
復興』と  
いう拡張主義  
には無理  
がある

- ロシアとの領土交渉はモンゴル王朝の末裔を称する満州族の清朝
- ウイグル、チベットにこだわるのは元の残照
- 倭寇を引き継いだ海上武装勢力鄭氏（鄭芝龍、鄭成功）の台湾は清朝に吸収された
- 『一つの中国』『中国』の一体化とそれにまつわる矛盾は何も習近平政権から始まったことではない
- 清朝の多元共存という体制にさかのぼって考えなくては理解できない問題である

社会主義市場経済も独裁資本主義も概念が矛盾している  
中国共産党が崩壊する可能性はきわめて高い





習近平の「中国夢  
Chinese Dream」  
＝「中華民族の  
偉大な復興」

歴史をたどれば「一体の中  
華民族」は存在したことが  
ない  
かつて存在しなかったこと  
をもとに戻す、回復させる  
ことはありえないから「復  
興」も現実ではない「夢」  
である  
← 当著の「おわりに」